

さとう健一郎



県民生活の福祉向上の為に活動している県庁組織は、実に多種多様で専門性が高い組織です。一方、私達議員は県民の皆様との日々のふれあいの中で、直接県民の声を聞き、県政への反映を目指しています。県庁組織が縦系となり、議員の意見が横系となって、優しく県民を包み込める布の様な諸施策を織り上げたい、と願って私は発言しています。

◎委員会審査で発言中の佐藤健一郎

県議会には「総務企画」「福祉環境」「農林水産」「産業労働」「建設交通」「教育公安」の6常任委員会があり、県政を分割し集中して協議しております。

常任委員会の任期は2年間であり、佐藤健一郎は既に全ての常任委員会に数回の所属しております。



◎常任委員会の審査風景

平成23年6月23日から24日にかけて、私の地元である矢島地域で24時間降雨量が234ミリという秋田地方気象台観測史上最多となる雨量を記録、「鮎川」と「石沢川」の堤防が決壊し、広い範囲で被災しました。速やかに現場の調査を行い、農家負担軽減と復旧のために要望活動が続けております。

◎6月24日の豪雨被災地の現場調査



鳥海とそれに連なる圏域の発展こそ私の願い。県議会議員六期二十一年目を日々全力で活動し続けています。

◎鳥海ダムの早期着工

◎日本海沿岸東北自動車道の事業継続と圏域国・県道の更なる改良促進

◎農業振興施策の充実と下水道など生活環境整備事業の促進

◎商工業を支援する施策の更なる充実強化

◎少子高齢化社会に対応できる福祉施設の充実

◎情報化社会に対応する環境をレベルアップ

◎官公事業の県内業者への優先的発注と地元産品の優先使用

◎鳥海は、次代の可能性に満ちたクリーンな産業の適地

Link

2011.7 No.19

ごあいさつ

自由民主党秋田県連 会長 大野忠右門

今般の東日本大地震により、わが国は未曾有の国難に直面しております。最大の政治課題は、この大震災にどう立ち向かっていくかであります。自民党会派は、今さえ良ければいいのではない、自分さえ良ければいいのではない、との思いの下に「自助・共助・公助」を基本とする社会の仕組みを充実させることを目標としております。この精神こそ、大震災の復旧復興にあたって最も求められるものであり、秋田県政の発展に欠かせない「絆」の精神であります。

私たち自民党会派は、県民の皆様と一致協力して、全身全霊を傾ける決意でこの国難に立ち向かって参ります。自民党には「自由」があります。全ての県民、議員・党友の皆様は、逆境の中にあっても集い、厳しさの中に揺るぎない信念を持って闘う仲間であります。一刻も早くこの国の「かじ」をわが手に取り戻し、県民の皆様生命と財産を守り、一人ひとりの幸せを実現して参る覚悟であります。

今こそ、踏ん張ろう。



絆 がんばろう 日本!

東日本巨大地震・津波・被害で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。



秋田県議会議員 佐藤 健一郎

平成23年3月11日、午後2時46分に巨大地震が発生しました。その日は2月定例県議会の最終日。私は本会議場で佐竹敬久知事の説明を聞いており、閉会間際に巨大地震に遭遇いたしました。

幸いにも今年の2月に県議会棟の耐震補強工事が完成しており、建物倒壊の心配こそしませんでした。急遽停止した本会議を停電と混乱の中

で再開し、会議を無事に終了させる事が議会運営委員長であった私の職務であり、この時に危機対処を経験いたしました。

この大震災を教訓にし、今後は秋田県の防災計画の見直しと大震災被災の隣接県として東北6県の絆を強め、被災地の復旧・復興と被災者支援に最大限の力を尽くさねばならない事を深く心に刻んでおります。

自由民主党 由利本荘市第二支部

〒015-0404 由利本荘市矢島町七日町字熊の堂4
 電話 0184-27-5511 ファクス 0184-55-2324
 ■http://ken-sato.sakura.ne.jp/ ■E-メール ken-sato@chokai.ne.jp

自由民主党会派と県民をつなぐ
Link リンク
 発行/平成23年7月15日
 ご質問、ご意見をお聞かせください。
 編集/秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号(県議会内)
 電話 018-860-2040 ファクス 860-2102

支えあおう東北! 今、秋田県が 立ち上がる!!

平成23年度6月補正予算の概要
補正予算額 **72億6,483万7千円**

今回の補正予算は、去る3月11日に発生した未曾有の災害「東日本大震災」への対応が軸となりました。中心は、復興に向けた対策、防災体制の充実を図るための事業について。また、新エネルギーの創出、「ふるさと秋田元気創造プラン」を推進する事業、経済・雇用対策等について決定しました。今回は、大震災後初の定例県議会。日本、東北、秋田に元気を生み出す、大事な“一歩”です。

東日本大震災への対応

10億2,287万6千円

1 被災地復旧・復興支援

復興支援建設産業サポート事業

2 災害者受入支援

災害者用民間賃貸住宅借上事業



防災体制の充実

12億4,360万4千円

市町村地震防災対策緊急交付金事業

社会福祉施設等発電設備緊急支援事業



新エネルギー産業の創出等

1億3,228万5千円

地球温暖化総合対策事業 ● 新エネルギー利用普及事業

節電・省エネ推進事業 ● 公共施設省エネ・グリーン化推進事業

ふるさと秋田元気創造プランに基づく施策

7億8,399万6千円

元気A 秋田に、新たな“戦略産業を創出”する企業立地支援制度の拡充

元気B 秋田の、“食・農・観”を丸ごと売り出すふるさと食材導入促進事業

元気C 県民が一丸となって“脱少子化秋田”を果たす子ども安心サポート事業

元気D 高齢化社会に対応した、“安心医療秋田”、“協働社会秋田”をつくる地域支え合い体制づくり事業

元気A～Dを支える横断的な取組

経済・雇用対策

38億8,001万円

1 消費の下支え対策

2 雇用対策(新規雇用128人)

基金造成

1億3,656万5千円

その他

6,550万1千円

高速道路ネットワークのミッシングリンク(未着手区間)の解消について

交通網の整備、特に本県においては高速道路の整備は地域活性の鍵といえます。このたびの「東日本大震災」は、物資の輸送や流通、救援救護の軸として、その必要性を改めて実感させられた出来事でした。我々、自民党会派では党本部を通じ、ミッシングリンク(未着手区間)の解消の要望書をいち早く政府に提出。積極的に働きかけています。

なんとかせねば!
未着手区間の解消

地方の自立・発展のために早期解決を!

県内の高速道路は、秋田自動車道が東北自動車道に接続している以外、全て県内でストップ。地域の自立や、産業経済の発展、防災ネットワーク確立の妨げになっている。

提案・要望 その1 広域防災ネットワークの構築、企業立地、観光振興、物流の活性化、生活コスト軽減のためにも、早期にネットワークの確立を。

すみやかにネットワークの構築を!

東日本大震災において、高速道路は他の交通環境に比べいち早く機能を回復。救援物資の輸送、物流ルートの確保など重要な役割を發揮した。また、日本海国土軸の重要性を改めて認識させられた。

提案・要望 その2 ネットワークの早期確立のためにも、現在事業中の区間は、建設スピードを落とすことなく早期整備を図ること。

命を守るためにも早期に事業着手を!

傷病者の救命率向上には、三次救急医療施設への搬送時間の短縮が必要。救急医療体制の充実が求められる今、速達性や走行性に優れた高規格幹線道路が必要。

提案・要望 その3 事業未着手区間である日本海沿岸東北自動車道「象潟-遊佐間」、「ニツ井白神-あきた北空港間」、東北中央自動車道「雄勝こまち-新庄北間」について、早期に事業着手すること。

事業のスピードアップを!

本県では、高速道路への接続道路の整備等、高速交通体系構築に向けた事業を重点的に推進している。

- 日沿道「ニツ井白神-あきた北空港間」関連事業-小ヶ田工区
- 日沿道「象潟仁賀保道路」関連事業-荒屋妻工区

提案・要望 その4 とりわけ、計画段階評価実施中の「ニツ井白神-あきた北空港間」は、必要な調査を早期に行い、平成23年度中に新規事業採択時評価を経て、すみやかに事業化を図ること。

秋田県高規格幹線道路網図

平成23年7月

